

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070800885		
法人名	医療法人 福満会		
事業所名	グループホーム 八重桜		
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市東区西戸崎5-8-54 (電話) 092-603-1715		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価確定日	平成22年4月6日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 11人, 非常勤 1人, 常勤換算 9.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建て		
------	----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000~69,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱800 円/日	
敷 金	有 (500,000)円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低 76 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくみつ病院・やまだ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「八重桜」は、海の中道海浜公園に近く、広い敷地内には同法人の老人保健施設やデイサービスが併設されている。趣のある木造平屋建ての室内は、高い天井に見える黒褐色の梁や柱、暖炉の設置や手作りの木製家具等が用いられ、懐かしく、落ち着いた雰囲気がある。また床暖房の設置やバリアフリー構造等、快適・機能的な空間づくりにも配慮が行われている。理念として、「共生」～共に生きる～を掲げ、「入居者」と「スタッフ」という関係である前に、「人間と人間」としての関係性を大切に、穏やかな日常を支援している。一人ひとりの思いや願いに気付いて行けるよう活用しているアセスメント様式や観察記録は充実を見せ、その実現に向けた柔軟な支援に努めていこうとする姿勢が伝わってくる。グループホームの理想の姿を追求して開設されており、「人の心」を大切に支援、また認知症ケアの質の向上に向けて、日々取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	日程が調整しやすいように事前の会議開催案内や出欠を伺うなど、工夫を重ねた。その結果定期的な会議となった。又記録物の様式も検討を重ね記録内容が充実し計画に反映できている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが評価内容をに目を通し、外部評価の意義を考える機会とし合同で評価をつくりあげた
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期開催されている。運営状況や活動内容等の報告を行い、また地域からは行事予定等の案内を受け、入居者ともに参加する等、活動の幅が広がっている。平日開催となり、家族の参加が難しく今後の課題としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	玄関に提案箱を設置し、請求時にアンケート用紙を同封したり、介護計画作成時に意見を聴くようにしている。また年2回、家族全員参加の食事をこなっており、家族間及び職員とのコミュニケーションの機会を持ちながら、意見を表しやすい関係づくりを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭り(山笠・十日えびす)への参加や、公民館文化祭への出品・参加を行ったり、隣接する同法人施設と合同にて、行事やカルチャー教室(陶芸・絵画・書道等)を企画し、地域の方と共に活動している。また公民館において認知症に関する講演を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「共生」～共に生きる～を理念として掲げており、「人間と人間の関係である」ということ、「人の心」を大切にしたい支援を、「八重桜」の礎としている。理念の基に運営方針を示し、また共有を育むために具体的な文章を示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は事業所内に掲示し、入職時のオリエンテーションでは必ず説明している。理念の実践に向けて、基本に立ち返り「グループホームの意義や認知症ケアについて学び、グループホームの職員としての専門性を高める」と年間目標を掲げている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の祭り(山笠・十日えびす)への参加や、公民館文化祭への出品・参加を行ったり、隣接する同法人施設と合同にて、行事やカルチャー教室(陶芸・絵画・書道等)を企画し、地域の方と共に活動している。また公民館において認知症に関する講演を行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては、職員全員が自身の確認として取り組み、それを基に話し合いを行いまとめられている。前回評価での課題であった運営推進会議の定期開催が実現しており、具体的な改善に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期開催されている。運営状況や活動内容等の報告を行い、また地域からは行事予定等の案内を受け、入居者ともに参加する等、活動の幅が広がっている。平日開催となり、家族の参加が難しく今後の課題としている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 八重桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	福岡市の認知症介護実践研修の他施設実習受け入れや、認知症介護サービス事業開設者研修の職場体験を受け入れている。打ち合わせ等で、市の担当者との連携の機会が多く、情報交換の機会としている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、外部研修に参加し、またホーム内での勉強会において理解を深めるよう取り組んでいる。家族等についても説明できるよう資料等を整備している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、入居者の生活状況が伝わるよう写真を掲載した「八重桜だより」を作成し、家族へ送付している。また状況に応じて、面会時やメール・電話等にて、家族の希望や状況にあわせた連絡を随時行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に提案箱を設置し、請求時にアンケート用紙を同封したり、介護計画作成時に意見を聴くようにしている。また年2回、家族全員参加の食事会を行っており、家族間及び職員とのコミュニケーションの機会を持ちながら、意見を表しやすい関係づくりを行っている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の思いや希望が表出しやすいように面談を行い、離職を抑えるためにも、法人内の異動も考慮している。入居者と共に花束や歌で職員のお別れ会を開き、入居者の方々にも職員が代わる事を伝える機会としている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、介護のニーズを考慮しながら性別のバランス等には配慮しているが、年齢等による排除は行っていない。人間性や就労の動機、意欲等を重視している。運営者との面談の機会を持つ等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 八重桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人内の身体拘束防止委員会においても人権尊重について話し合っている。職場内でアンケートを実施し、職員同士で言葉使いや対応について気になる点に注意しあう機会を持ち、意識を高めるよう取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	毎年個人の年間目標を揚げ、目標達成に向けて取り組んでいる。また同法人施設と合同にて学習委員会を設置し、個々のスキルに応じた計画的な研修を実施しており、職員間で共有し自己研鑽に努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会で新人教育の研修が詳細に組まれており、他事業所職員との交流により見識を広める機会となっている。また近隣の事業所とドライブ先で合流し、入居者・職員の交流の場となっている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に自宅や施設を訪問したり、事業所に見学にきていただいている。本人・家族からも情報を得ると共に、職員との顔なじみの関係づくりを行いながら、環境の変化に伴う不安感を軽減できるよう配慮している。暫定的な介護計画を作成し、随時修正を行なっている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	理念の基に運営方針として、 ・「人間と人間」の関係である。 ・認知症高齢者の現状を理解し共感し、共に暮らす。 ・互いに助け合い生活を共にする。 ・みんなの心が美しさに満ちあふれ生命の喜びを感じあえる。 と示しており、理念・方針の実践に向けて日々取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 八重桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	アセスメントツールとして、独自の様式及びセンター方式を活用し、家族にも記入してもらいながら、生活歴等、全体像の把握に努めている。また入居後は計画の見直し毎に、日常生活の主要な項目について、独自の視点で観察記録しており、入居者一人ひとりの望みや願いを把握できるよう取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者・家族の希望を確認し、各担当職員や医療情報、管理栄養士等の意見を参考にし、日々の観察記録を基に職員間で話し合いを行い、入居者本位の介護計画を作成している。わかりやすい文言で、具体的に記載されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	担当者会議、ケアカンファレンスを通して、定期的に見直ししている。入居後間もない方の場合、早急に計画の見直しを行う場合もある。また体調の変化や家族状況に応じて、その都度計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	母体法人間での連携により、緊急時等、24時間対応できる体制にある。趣味や特技を活かしていくために、隣接する介護老人保健施設と合同でクラブ活動や行事を行っている。個別の希望により、生家へのドライブ、故郷の島やお墓参りに同行するなど、可能な限り柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望によるかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診時には職員が付き添い、診察結果は職員にも周知し、家族にも報告している。母体病院、また同敷地内に医師・看護師が常勤する施設があり、24時間の連携体制を築いている。遠方の病院診察については家族に相談協力を得ている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 八重桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に「医療の必要時の対応」について説明を行っている。入居者の体調や疾患によって、本人や家族の気持ちも変動する事を考え、その都度重度化や終末期について、話し合いを重ねている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居時に、希望される呼び名について伺い、また入室時には許可を得るよう声かけする等、入居者一人ひとりの尊厳を損なわない対応に努めている。記録等、個人情報の取り扱いに配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	起床時間や朝食時間は設定しておらず、一人ひとりの起床にあわせて朝食を用意している。また入浴日や時間帯、受診同行等についても、希望にあわせて対応するよう努めている。詳細な観察記録により、それぞれのペースやリズムを把握しながら、柔軟な対応が行われている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	ランチョンマットや食器等は個々の好みの物を使用し、職員も同じテーブルを囲み、同じメニューにて食事しており、和やかな食事風景があった。主食はご飯とパンの選択ができるようになっており、また「刺身の日」にはお酒を嗜む方もおられる。誕生日には本人の好みを取り入れ、行事の際にはそれにふさわしいメニューとしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望や生活習慣、タイミングにそった支援に努めており、毎日の入浴にも対応している。また浴室には2ヶ所の個浴設備があり、柔軟な対応を行うことができる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 八重桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや入居者の方々との会話の中から、役割りや楽しみごとの把握に努め、暮らしの中での場面づくりを支援している。訪問者の出迎えを役割とされている方もおり、その他、カラオケ・踊り・押し絵・絵画・陶芸など、楽しみごとや趣味活動を支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の意向や体調、天候等に応じて、散歩や買い物、庭でお茶を楽しんだり、畑仕事等にて戸外に出掛けられるよう支援している。また、故郷の島を訪ねたり、生家へのドライブ・お墓参り等を、柔軟に支援している。		新型インフルエンザ等の影響により、外出する機会が減少しており、入居者によってはホームの中で一日過ごす方もいる。散策ができる敷地や、季節ごとの彩りを楽しむことができる庭など、恵まれた周辺環境の中にあり、個々の意向や好みを更に把握し、日常的な個別の外出支援の充実を検討している。今後の充実に期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族からの要望もあり、防犯上オートロックを設備しているが、室内からは自由に外出できる。居室も施錠されていないが、本人の意思により室内から鍵をかけることはできる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、敷地内の同法人介護老人保健施設との連携により、避難訓練を実施している。また職員が地域の防災訓練に参加し、協力・連携体制の構築に向けて取り組んでいる。今後は、地域や隣接施設との関わりを、より具体的に示した防災対策マニュアルの作成等、更なる充実にも期待したい。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後、主食・副食に分けて記録し、また水分摂取量も把握・記録し、健康管理につなげている。管理栄養士による献立が作成されており、昼食は隣接施設より提供され、朝・夕食はホームで調理されている。体重測定は週1回行っている。		

グループホーム 八重桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	アプローチから玄関へと続く緩やかな坂から、段差無く玄関ホール・リビングへと通じている。リビングは食堂・台所と一体的になっており、格子状の間仕切りにより、空間の広がりはそのままに、圧迫感の無い造りとなっている。天井には黒褐色の剥き出しの梁が見え、古きよき時代を想像させる。間接照明や床暖房・暖炉、手作りの木製テーブルと椅子等、懐かしさと温かみ、機能性を兼ね備えた、落ち着いた雰囲気空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の表札は本人・家族の好みのものが掛けられ、また入口の引き戸はデザインがそれぞれ異なり、自室の認識がしやすい工夫されている。大きな窓には障子が設置され、また直接、戸外に出ることもできる。使い慣れた箆笥や机・椅子、大切な写真が持ち込まれており、居心地良く、安心して過ごせるよう空間づくりが行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			